

れにせよ、PASJ の現状を改善するためには、かなり抜本的改革をする必要があるように思う。

**日本天文学界への提言・要望：**個人的に知名度を上げるには、外国に行って良い研究をするのが一番手取り早いかも知れない。しかし、日本の天文学界全体のためには、東洋の“果て”日本で、国際的な会議を頻繁に開催して欲しい。21 世紀の近い現在も、西欧にとって日本はまだ未知の国ではないだろうか。

引用によって PASJ の質の真の評価が下されたと思うのは大きな間違いである。調査の一段落した現在、寧ろ問題は如何にして PASJ をその質に見合っただけ読んで貰うか、だと考えている。PASJ は現在の研究者だけのものではなく、遅れて来る人たちのものでもある、ということを一たび銘記し、関係者の今後の努力に期待して筆を置きたい。

最後に、初期の原稿を読んで有益な意見を述べて頂い

た、内田 豊氏、定金晃三氏、柴田一成氏、寿岳 潤氏、および吉井 謙氏の皆さんに感謝します。特に定金、柴田両氏の絶えざる励ましがなければ、本報告が日の目を見ることはありませんでした。(残念ながら紙数の都合などで、資料やその分析の一部および主観的意見の大半は割愛せざるを得ませんでした。それらに興味のある方は筆者まで連絡を取って下さい。)

文 献

1. 細矢治夫：科学，1981 年 5 月号 278 頁「科学論文の運命と寿命」
2. 日本物理学会誌，1985 年 7 月号 535 頁「Journal, Progress, JJAP の現状と将来」
3. 内田 豊：天文月報，1984 年 11 月号 289 頁「PASJ から外国誌への論文流出についてのアビール」
4. 平山 淳 他：天文月報，1985 年 7 月号 190 頁「日本天文学会欧文報告誌の発展のために」
5. 広田 勇：自然，1984 年 5 月号 77 頁「論文の寿命」
6. 有馬朗人・金田康正：科学，1984 年 6 月号 360 頁「研究者の活動力を測る」

学会だより

ハレー彗星観測記録の展示

前号で概略をお知らせしましたように、この展示はすでに得られている記録を見渡す機会をつくるとともに、ハレー彗星研究の基礎資料を得ることを目的としています。展示した写真や図はなるべく早く出版物の形にして永久に残したいと思ひます。奮って御応募ください。

1. 募集するもの：a. 尾をふくむ彗星の全形，b. 頭部と尾の生成域，c. 中心核近傍の 3 種の写真，およびスケッチ (b, c のみ)。そのほかスペクトル写真，偏光写真なども歓迎します。
2. サイズ：黑白写真は六ツ切 (20 cm×25 cm)，カラー写真はキャビネ (12 cm×16.5 cm) か大キャビネ (13 cm×18 cm) にプリントしたもの。スケッチのサイズはカラー写真に準じます。1986 年 1 月以前は尾が左上向きに、2 月以後は上向きになるようにそろえてください。特殊な写真はサイズ制限をしません。
3. データ：別掲の様式に従って (コピーでよい) 記載し、出展 1 枚毎にその裏にセロハンテープで留めてください。

4. 送り先：宛名 〒181 三鷹市大沢 2-21-1  
日本天文学会 ハレー彗星係  
締切 1986 年 5 月 6 日

封筒に「ハレー彗星応募」と朱書。郵送の途中で傷つかないように、両面を厚紙でおおうとよい。

応募作品は原則としてお返ししません。

5. その他：出版物として発表する場合にはあらためて写真掲載の諾否をおたずねいたします。(庶務理事)

日本天文学会・ハレー彗星観測出展用紙

氏名：	電話：	勤務先 or 自宅
住所：〒		
撮影 (スケッチ) 年月日：198 年 月 日 h m s ~ h m s U.T.		
望遠鏡 or カメラ：口径      cm. 型式      . f =      cm. F =		
接続光学系：	接眼鏡：	倍率：
フィルム：	フィルター：	
フィルム現像液：	°C      分	印画紙：
シンチレーション：良   可   不良	透明度：良   可   不良	
観測場所など：	月：有→月齡 無	

◎出展 1 枚毎に裏にセロハンテープで留める。